

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：34415

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13200

研究課題名(和文) Language Policy and Practice in non-classroom Language Learning Spaces

研究課題名(英文) Language Policy and Practice in non-classroom Language Learning Spaces

研究代表者

ソントン キャサリン (Thornton, Katherine)

追手門学院大学・基盤教育機構・准教授

研究者番号：70806116

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：セルフ・アクセス・ラーニング・センター(SALC)は通常大学内にある、教室を超えた言語学習のためのサポートを提供する施設である。本研究は、日本のSALCにおける言語政策の実践について調査した。政策選択に影響を与える要因や、政策に対する様々な関係者の態度について理解を深めることを目的とした。また、SALCにおける言語選択と言語使用の実態についても調査した。それぞれ異なる言語政策を導入している3つのSALCに焦点を当て、事例研究アプローチを採った。調査を通じて、言語政策はセルフアクセスセンターで使用される言語に影響を与える要因のひとつに過ぎないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、セルフアクセスセンターで言語がどのように使用され、どのように言語政策が策定されているかを調査することにより、この問題の複雑な本質に光を当て、日本中のSALCの実務者に、それぞれの施設で好ましい言語学習環境を作るための洞察を提供する。

研究成果の概要(英文)：Self-access learning centres (SALCs) are physical places, usually but not exclusively in universities, which provide support for language learning beyond the classroom. This study aimed to investigate language policy practices in SALCs in Japan, with a view to developing a deeper understanding into the factors which influence policy choice, and the attitudes of different stakeholders towards policies. In addition, actual practices in language choice and language use in SALCs was also examined.

Through the research, it was revealed that language policy is only one of the factors which influence the language used in self-access centres.

研究分野：外国語教育

キーワード：言語ポリシー 自律学習施設 self-access

## 1. 研究開始当初の背景

セルフ・アクセス・ラーニング・センター (SALC) は通常大学内にある、教室を超えた言語学習のためのサポートを提供する施設である。日本では、SALC は、キャンパス内の国際交流の促進、自律的な言語学習能力の育成、言語学習機会と目標言語使用機会の提供という、相互に関連した3つの目的を持つことが多い (Thornton, et al. 2021)。そして、これまでは特に学習者の自律性が重視されてきたが、その一方で、近年、SALC の機能はやや変化している。インターネット以前の時代には、自主学習のための教材を提供することに重点を置いていたが、現在では、学習者同士が関わり合いながら言語学習を持続させる、社会的学習空間となりつつある (Murray & Fujishima, 2013)。このように SALC は社会的な相互作用を促進する方向にシフトしているため、空間における相互作用の言語と、それを管理する言語ポリシーについて、より綿密に検討する必要がある。また、SALC 管理者は、目標言語の習得を促進し、利用者の自律性と言語選択を尊重し、言語能力に関係なく、すべての人が言語学習を楽しめるような雰囲気を作るといふ、複数のニーズをバランスよく満たす必要があると言える。さらに、多くの SALC は、複数の目標言語に対応している。しかし、このようにニーズが複雑に絡み合うにもかかわらず、言語政策に関する研究はほとんど行われていないのが現状である。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の SALC における言語政策の実践について調査した。政策選択に影響を与える要因や、政策に対する様々な関係者の態度について理解を深めることを目的とした。また、SALC における言語選択と言語使用の実態についても調査した。

調査に際しては、ス波尔スキー (2007) に基づき、以下の4つの研究課題を設定した。

1. 日本の SALC において、どのような言語政策がとられているのか? (管理)
2. 言語政策の根拠は何か? (信念)
3. ステークホルダー (教職員・学生利用者) は、言語政策についてどのように感じているか? (信念)
4. SALC では、実際にどのように言語が使われているか、また、どのような要因がそれに影響しているか? (実践)

## 3. 研究の方法

このプロジェクトでは、それぞれ異なる言語政策を導入している3つの SALC に焦点を当て、事例研究アプローチを採った。各校の関係者にインタビューとフォーカス・グループを実施した。各校の規模が異なるため、各校で実施したインタビューの回数は同じではない。表1にインタビューの内訳を示す。

SALC	ディレクター	ラーニングアドバイザー	教員	職員	学部生
SALC1	(研究者本人)	(研究者本人)	1	2	学部生 6 名 + 学生アンケート x 2
SALC2	1	3	4	2	大学院生 1 名
SALC3	1	1	0	0	学部生 4 名

## 4. 研究成果

### リサーチクエスチョン1: 日本の SALC における言語政策のバリエーション

日本の SALC の大半は、英語学習支援に重点を置いている。少数派ではあるが、英語以外の言語 (LOTE) の学習支援も行っており、その程度はさまざまである。特に、留学生を対象とした外国語としての日本語のサポートは、英語以外の言語に対するサポートとしては最も一般的なものである。調査対象となった SALC では、以下のような方針がとられていた。

SALC1: 言語方針はない。スタッフは日本語と英語のバイリンガルで、看板は日本語で書かれているが、英語の量はまちまちである。学生は英語または他の外国語を使うことを奨励されるが、強制されていない。

SALC2: 2 階建てのハイブリッドな言語方針。1 階は多言語対応、2 階とカウンターエリアは英

語専用ゾーン。また、多言語フロアには、より緩やかなポリシーの英語エリアがある。

SALC3: 日本語なしの言語方針。学習している言語（主に英語だが、中国語、ドイツ語、スペイン語なども）を使用することが求められている。

### リサーチクエスチョン2: 既存の言語ポリシー、またはポリシーを変更するために与えられた理由

**学生の選択** SALC2 では、新しいスペースがオープンする前に、学生の希望について詳細なアンケートが行われた。その結果、学生の意見は2つに分かれた。学生は、英語ゾーンを厳格に管理すべきか、あるいは、自由にスペースを使えるようにすることを望んだかのどちらかであった。SALC3 の場合、もともと学生が自ら立ち上げ、外国語を使うためのスペースであるためその当初の目的・方針が尊重され、現在の形になっている。

**学生の特性に合わせた対応** SALC1 では、学生全般の自信と能力が低いことが言語ポリシーを実施しない理由であった。

自律性の促進を望む SALC1、2 では、自律性を尊重することが理由とされている。また、学生が対話の言語を選択することを可能にすることで、アドバイジングサービスをより身近なものにするといった柔軟な対応を取っている。

**大学の方針** 3つの SALC の言語ポリシーは、教育機関の教室での言語ポリシーや文化、提供される外国語にも影響される。もし学生が授業で英語を使うことに慣れていれば、SALC の空間でも英語を使うことができると考えられ、逆に教室にそのような文化がなければ、学生は SALC のようなあまり構造化されていない空間で英語を使うための自己統制力を持つことはできないと考えられる。

**外国語を使うための安全な空間を作ること** これは、厳格なポリシーと柔軟なポリシーの両方の理由として挙げられている。SALC3 では、日本語禁止という厳格なポリシーが、外国語の使用を正常化し、学生に外国語を使用する許可を与えると考えている。日本語禁止を徹底することで、外国語を使うことが当然なこととなり、学生が外国語を使うことが許可されると考えている。同様に、SALC1、2 の言語ポリシーの理由としては、言語使用者に自信がない場合でも、外国語でのコミュニケーションにプレッシャーを感じることなく、快適に空間を使用できるようにするためである。また、SALC1、2 では、日本語を学ぶ留学生が過ごす場所としても魅力的だと思われたいという考えもあり、多言語対応ポリシーが好まれた。

**教育的な理由** 第二言語習得の観点から、学習者が自分の母語を複数の方法で使用し、言語学習プロセスを促進するという理解は、インタビューしたすべての SALC のディレクターも認めていた。これは、SALC3 の日本語禁止の環境においても、柔軟な方針、トランスランゲージングの促進 (Garcia & Li Wei, 2014) を支持することにつながった。

### リサーチクエスチョン3: 現在の言語ポリシーに対するステークホルダーの意識

スタッフの意見:

SALC1 - インタビューの参加者は、英語や他言語でのやり取りをユーザーに要求しないことに概ね賛成であったが、ターゲット言語の使用をもっと奨励したいという要望もあった。しかし、快適な環境を提供することと、言語選択に関する学生の自律性が最も重要であると考えられていた。

SALC2 - インタビューしたすべての教職員は、多言語スペースと英語専用スペースの両方を提供することに概ね賛成だったが、英語専用ゾーンでも英語があまり使われていないことに相当な不満があった。多言語対応にすることで、自律性を促進するためのアドバイジングやその他のサービスへのアクセス性が高まると考えられていた。

SALC3 - 教職員は、SALC のユニークな環境作りに、とても誇りに思っており、それはある程度ポリシーのおかげでもあると思われた。実際は、日本語が許容されることが多くても、学生に外国語で交流することを努力させるために日本語禁止のルールは重要であると考えられていた。しかし、特にディレクターは、現在のポリシーが自信のない言語使用者の利用を妨げる障害になっていることを認識していた。そのため、厳格な言語ポリシーを持たない新しい隣接スペースを設定する過程にあった。

学生利用者の意見:

SALC1 - フォーカスグループでは、学生は厳格なポリシーを持たない多言語スペースに賛成していることが明らかになった。しかし、英語をどの程度普及させるか、他の言語の役割はどうあ

るべきかについては、異なる見解があった。留学生は、自分の言語が使えること、日本語の学習や練習に使えることに満足しているようである。しかし、方針が明確に示されていないのは、少し曖昧だという意見もあった。また、新しい利用者の中には、英語を使うべきだと思いついて入る人もいれば、言語学習の場とは全く考えず、日本語だけで交流し、外国語を使おうとはしない人もいた。このような学生の存在は、支援的な環境を損なう恐れがある。また、多言語空間を宣言しておきながら、カウンターで英語を要求するのは矛盾しているとの指摘もあった。しかし、学生スタッフはロールモデルとなるべきで、できるだけ英語や他の言語を使うようにするべきだという意見で一致した。

SALC2 - 政策に対する態度は、もっと英語を使いたい、英語だけのフロアを厳しく取り締まりたいという学生と、言語使用に関して自分自身で選択することを好む学生の間で分かれた。

SALC3 - この学生は、この政策に非常に協力的であった。彼らは、外国語を使うことがこの施設の目的であることからそうしないことは「意味がない」と考えていた。参加者の中には、言語ポリシーが「日本ではない」空間であるかのような印象を与える要因になっていると指摘する人もいた。しかし、特にスタッフがいないとき、インタビューした全員が友人と日本語を使うことがあることを認めていた。

#### リサーチクエスチョン 4a (プラクティス)。各 SALC での言語使用状況

SALC1 カジュアルな交流は主に日本語で行われる。カウンター、セッション、スタッフとのカジュアルなやりとり、熱心な利用者の間では英語がよく使われるが、学生の能力に左右されることはない。低レベルの利用者の中には、難しい場合でも英語にこだわる人がいる一方、英語上級者の中には、英語より日本語を使うことを好む人もいる。また、留学生の言語もよく聞こえてくる（特に中国語、インドネシア語）。

SALC2 政策があることにも、両フロアとも日本語が主流であるが、特にイングリッシュラウンジでは、スタッフがいないときだけでなく、しばしば英語が聞こえてくる。1階の英語スペースでイベントが行われるときは、英語がよく使われる。フランス語の学習コミュニティなど、特別なグループでは、他の言語も聞かれることがある。

SALC3 スタッフがいるときは、ほとんどの学生が英語を使う（そして、親切に注意される）。スタッフがいないときは、特にやる気が低い人や自信のない学生の間で日本語がよく聞かれる。アドバイザーは、スペース内では英語しか使わず、学生が日本語で相談したい場合は積極的にスペースを離れる。ディレクターは主に英語を使うが、しばしばトランスランゲージを介して話す（他の言語を使用）。

#### リサーチクエスチョン 4b (プラクティス)。SALC における言語使用に影響を与える要因

公的な言語方針は、どのように言語が使用されるかを決定する際の一部分に過ぎないことが、調査によって明らかになった。その他にも、いくつかの要因が非常に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

- A) 大学の背景。外国語学習が大学全体の焦点であるかどうか、教室でどのようなことが期待されているか、教師がどのようにサポートしているかは、学生が外国語を使うという選択をすることに影響を与える。
- B) 物理的な空間。場所、大きさ、レイアウト（スタッフカウンターの位置、教員の研究室、出入り口、通路など）、家具の選択などはすべて、学生の空間の捉え方や動線の決定に重要な役割を果たしており、それゆえ、言語の使い方にも影響を与えると考えられていた。広いスペースは監視から解放されているように感じられるため、ターゲット言語のインタラクションは少なくなるかもしれない。その反面、さまざまなエリアを提供することができ、そのレイアウトや位置はインタラクションのパターンに影響を与えることができる。
- C) 人とコミュニティ。コミュニティ、あるいは大きなスペースの場合は複数のコミュニティが出現することが、言語使用の性質を決定する重要な要因であることが明らかになった。スタッフや他の潜在的な対話者の存在は、目標言語の使用を促進する傾向がある。また、異なる言語を使用する利用者同士の支援的な関係も、学生が安心して自己表現ができ、モチベーションが上がるため、外国語の使用を促す。
- D) ユーザーの要因 最後に、学習者間の個人差も重要な要因である。そして、学習者が SALC を利用する目的、アイデンティティ、モチベーションのレベルなどが挙げられたが、外国語の能力よりも自信や自己管理能力の方が重要であると考えられる。また、学習者自身の言語使用に対する意識も重要な役割を担っている。これらの要因はすべて、スペースのアイデンティティに反映され、その施設が利用者にどのように理解されるかに影響を与える。

## まとめ

本研究は、セルフアクセス学習センターにおける言語政策と言語使用の複雑な性質を明らかにした。第二言語習得の研究では、外国語学習の過程でL1が積極的な役割を果たすことが明確に支持されているが、厳格な言語政策によって目標言語の使用を奨励する安全な空間を提供することにもそれなりの理由があると考えられる。しかし、方針決定は、学生がその場でどのように言語を使用するかを決定する1つの側面に過ぎない。それと同様に、あるいはそれ以上に重要なのは、組織的な背景、物理的な空間そのものとその配置方法、空間を利用する人々やコミュニティ、利用者の個々の特性といった要素である。ディレクターや管理者は、SALCの設置方法を決定する際、特に目標言語の交流を最大化を目的とするのであれば、これらすべての要因を考慮する必要があると言える。

## 参考文献

- García, O., & Li Wei. (2014). *Translanguaging. Language, bilingualism and education*. Palgrave Macmillan.
- Imamura, Y. (2018). Adopting and adapting to new language policies in a self-access centre in Japan. *Relay Journal*, 1(1), 197–208. <https://doi.org/10.37237/relay/010120>
- Kato, S., & Mynard, J. (2015). *Reflective dialogue: Advising in language learning*. Routledge.
- Murray, G., & Fujishima, N. (2013). Social language learning spaces: Affordances in a community of learners. *Chinese Journal of Applied Linguistics*, 36 (1), 141—157.
- Spolsky, B. (2007). Working Papers in Educational Linguistics (WPEL) Towards a Theory of Language Policy, 22(1), 1–14.
- Thornton, K. (2018). Language policy in non-classroom language learning spaces. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 9(2), 156–178.
- Thornton, K. (2020). Student attitudes to language policy in language learning spaces. *Japan Association for Self-Access Learning Journal*, 1(2), pp. 3–23.
- Thornton, K., Taylor, C., Tweed, A. D., & Yamashita, H. (2021). JASAL and the self-access learning center movement in Japan. In A. Kramer & E. Lavolette (Eds.), *Language center handbook 2021* (pp.31-59). International Association for Language Learning Technology.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Thornton, Katherine	4. 巻 1 (2)
2. 論文標題 Student Attitudes to Language Policy in Language Learning Spaces.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JASAL Journal	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Katherine Thornton (キャサリン ソートン)	4. 巻 9 (2)
2. 論文標題 Language policy in non-classroom language learning spaces.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Self-Access Learning Journal	6. 最初と最後の頁 156-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Katherine Thornton
2. 発表標題 Student Attitudes to Language Policy and Practice in Non-Classroom Language Learning Spaces
3. 学会等名 Language Education and Identity in Multilingual Contexts 3 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Katherine Thornton (キャサリン ソートン)
2. 発表標題 Multilingualism in self-access centres: the role of language policy in semi-naturalistic language learning settings
3. 学会等名 Language, Identity and Education in Multilingual Contexts (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Katherine Thornton (キャサリン ソートン)
2. 発表標題 Language policy in self-access centres - facilitating or impeding a translanguaging space?
3. 学会等名 International Conference in Bilingual Learning and Teaching (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関